

## 令和6年度 第1回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：令和6年5月29日（水） 午後1時30分～午後3時30分

場所：京丹波町役場2階 大会議室

出席委員：11名

欠席委員：7名

### 1 開会あいさつ

**会長：**昨年に会長の就任依頼をいただいたが、お役に立てるのか不安に思っていた。

しかし参加する中で、地域の子どもたちの見守りや、地域の子どもたちの声を聞く中で自分自身が癒され、その子どもたちを育てていらっしゃる保護者の皆さんに感銘を受けるなど、いろいろなことに意識して目を向けられるようになり、会長の職を引き受けたことに感謝をしている。

昨日は京丹波町で豪雨による警報が発出され、支援員を務めている学童保育の場でも、緊張をしている子どもがいたが、早めに保護者が迎えに来られ、ほっとした顔で帰宅していった。やはり子どもたちの安心、安全、安定はそれぞれのご家庭にあるのだなと痛感し、喜びを感じていた。

コロナ禍では人や社会と触れ合うことができず、子どもたちは経験する機会から遠ざけられたり、シャットダウンされたりする環境に置かれ、リスクの大きい生活をしてきた。取り戻すためにはより一層の大人たちの努力が必要になる。委員の皆さんの思いを審議会の場で京丹波町の行政に発信していくことが大事なのだろうと思う。この審議会では令和7年度からの第3期子ども・子育て支援事業計画策定に関わる審議をしていただくことになる。昨年度に行った各家庭へのアンケート調査の結果やアドバイザーの原副学長の講演を聞いて出たご意見、そして審議会の皆さんの思いを大いに盛り込んで新しい計画ができるように頑張っていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

2年間の任期の中で最初は不安や緊張があったが、審議会のメンバーがワンチームで子どもや子育てのことを語ることで、委員の皆さんに信頼感や親近感を覚えるようになった。今年度から新しいメンバーを迎え、残り1年の任期もワンチームとして子どもの成長や子育てのあり方について大いに参画していきたいと思っているのでご協力をお願いしたい。この審議会の場がネットワークを作る場やつながりを強める場でありたいと考えている。皆さんの支えによってこの審議会がますます盛り上がることを期待している。

## 畠中町長あいさつ

### 2 委嘱状の交付

委員 1 名 代表受領

### 3 自己紹介

出席の委員、オブザーバー、事務局が、自席で名前のみ自己紹介

### 4 説明事項

子ども・子育て審議会について

【事務局による説明】

### 5 協議事項

子ども・子育て支援に関するアンケート調査の結果について

【事務局による説明】

**会 長：**アンケート調査の結果について感想や感じられたことがあれば、次のグループワークの場でもお話しいただきたい。

### 6 グループワーク（テーマ：京丹波町の子どもと子育てに必要なこと）

**会 長：**昨年度第 2 回目の審議会では「子どものために何ができるか」というテーマでグループワークを行った。皆さんからは医療や教育現場、不登校、情報発信の方法とそれがキャッチできるか、図書館の「サードブック」事業など、さまざまな意見を出していただいた。今回は「京丹波町の子どもと子育てに必要なこと」というテーマで意見を出していただき、審議会や行政でどんなことができるのかなと、具体化して取り組んでいきたいという思いでテーマを設定した。

【事務局による説明】

【3 グループでグループワーク（約 6 0 分）を実施。各グループが議論内容を発表】

（A グループ）

アンケートについて、ネットでの回答が全体の 3 分の 1 程度あったので、ネットでの回答を継続することは必要だろうと思う。SNS や LINE などを使って、もっと大きく広報しても良かったのではないかな。

回収率が半分強でいいのかという意見も出た。回答されなかった人の思いはどうやってキャッチするのか、声を上げられない人に課題が潜んでいることが多いのではないかな。得られたアンケート結果だけを検討していると、大事なことを見落とすのではないかなという懸念の声もあった。

町内にドラッグストアがオープンすることも話題になった。大歓迎の一方で、休日の救急診療や急病の子どもの一時的預かりなど、子育て世代が常に直面する課題は引き続き検討をすることは必要だと思う。

また、お年寄りだけでなく、老若男女いろいろな人が集えるような、テーブルと椅子があり、話ができるような環境づくりもできるのではないかな。子どもや親子にとっての体験や学び、新たな人と出会う機会の創出も大切だが、経済的や精神的にゆとりのある人だけが恩恵にあずかるのではなく、公共の力を借りて作ることが大切。工場や牧場、農業などと連携して親子で参加できる企画や、豊富な経験をお持ちの方を講師に迎え、ノウハウや体験談を話してもらう機会があるといいと思う。斬新な意見として、小規模、少人数の小学校は統廃合していくのではなく、希望したら町内のどこからでも通えるようにするなど、今までやったことがないことをやってみることも必要という声もあった。

保護者自身も悩みや困りごとを抱え、くつろぎたいと思っておられるので、親の居場所として不安や困りごとを相談でき、保護者同士のつながりをつくれて安心できる場（子育ての先輩が相談に乗ってくれるような場）を継続して作っていくことは大事だと思うので、増やしていけたらと思う。

このチームのメンバーは全員町外から来た移住者だった。自分自身も地域の役員をして感じたことだが、「新しいことを始めても受け入れてもらえるだろうか」、「地元の人はこれまでのやり方を変えようと思っておられるだろうか」と疑問に思っていた。そういった様子見をする意識を変えていかないと変わっていかないと思う。

## （Bグループ）

アンケートの回収率について、オンライン回答も可能になったがあまり伸びなかった。特に小学生は前回から10ポイント近く落ちている。アンケートの結果こういう施策を取り入れた、ということが分かるのは、第3期の計画ができてからになる。それまでの間、私の回答はどうなったんだろうと思われる方がいらっしゃると思うので、アンケート結果の中間報告を、記入をお願いした保護者に行う必要があるのではないかな。

また、5割近くの方が回答されていない。回答をされていない方の思いはどうすくいあげるのか。回答される方は時間的、精神的にゆとりのある方が多いと思うので、回答されていない方の生活に目を向けることも忘れてはいけない。記述の回答をたくさんいただいたのはありがたいことだと思う。子育てをされている保護者の思いがつまっているので、読み込んで行く必要があるという意見があった。

行事への参加率が下がっているのは、コロナ禍で縮小されたことも影響したと思う。また、こども会自体もなくなっている地域もある。PTA 活動に躊躇される保護者もいらっしゃる。そのような中で、前回の講演で原教授がおっしゃっていたように、地域の保護者のつながりや地域の方と子どもとのつながりをどうつくり、大事にしていくか、考えないといけない。

保護者の悩みごとのトップが経済的な不安だった。特に小学生で、子どもの成長にしたがって経済的な悩みを抱えておられる割合が高くなっている。中には食べる物や着る物を得ることも困難だという方もいらっしゃった。子育て中の家庭を何らかの形で経済的に支援することも考える必要がある。

よかった面として、子育てが楽しいと感じられている方、父親の育児参加の割合が高くなっている。第2期子ども・子育て支援事業計画で実施してきた取組みの成果なのだと思う。

情報の入手方法や相談体制について、必要な人に必要な情報が届けられる工夫をしていかないといけない。学校から情報を得られている方の割合が高かった。情報を自分から求めておられる方は、インターネットや広報から町の施策の情報を入手されている。そうでない保護者も、学校やこども園から配布された子どもに関する情報なら読まれると思うので、学校の協力を得るなど関係機関が連携しながら情報共有し、施策を学校を通して浸透させていく方法は有効ではないか。

学校との信頼関係の構築の大切さや学童保育には入れない子どもがいることも話に上がった。小さなことも見落とさないことが必要だと思う。

## (Cグループ)

アンケートに参加されていない方の意見をどう考えていくかが一番大事だと思う。書く時間や余裕のない方もいらっしゃるだろうし、多くの方に参加いただける方法を考えるのが大事だという意見が出た。

京丹波町は医療費が充実しており、中学校まで給食があることは画期的だという一方で、京丹波町病院ではコロナ禍以降、子どもの受け入れが難しくなっており、断られることがあったという声も出た。そういった面があるのなら、どうにかしていかないといけないと思う。

町内には移動手段が少ない。対策としてはライドシェアやファミサポなどが考えられると思うが、なかなか充実していない。ライドシェアについてはまだ不安なところがあるので、子どもが利用できるほどに定着するまで時間がかかると思うが、現状それしか方法はない。高齢者も免許を返納したら移動手段がないので、ライドシェアを充実してもらい、住民側もなじんでいくしかないと思う。

雨の日にも遊べる場所がないという意見について、行政に頼んで職員を派遣してもらうことは簡単かもしれない。ただ、地域の中でそういったことはできないだろうか。保護者か地域の方が子どもを見る必要はあると思うが、雨の日にはここで遊べるという場所を、地域を挙げてつくってあげる必要があると思う。

母親が主に子育てをされている家庭では、母親がアンケートに回答されることが多いと思うので、父親の意見はなかなか出てこないと思う。夫婦で話し合って書いてもらえるようになればうれしい。

この審議会では子どものことについて考えているが、生まれてから亡くなるまで、一生のことについて連続的に話し合っていく窓口が行政にはない。子どもや高齢者などで区切って話し合っているのも、それぞれの支援がつながらない。行政にお願いするだけでなく、我々が発信して変えていこうとしないと多分変わることはないと思う。ぜひともそれぞれの分野すべてをつなげて考えていく窓口を開いてほしい。

Aグループの発表で、「新参者が新しいことをするとなにか言われなければならないか」とおっしゃったが、そういうことは思わないでほしい。移住者にこそ変えていってほしい。移住者が以前から住んでいる人に新しいことを提案し、冒険していかないと変わらない。それを理解する社会をつくらないと変わらない。まず地域から変えていけるといいと思う。

**会 長：**どのグループも熱い話で盛り上がったと思う。グループワークで出たエネルギーが、いろいろな場で生かされていくような審議会であればいいと思う。

## **7 事務連絡（次回予定）**

【第2回審議会】日時：令和6年7月18日（木）午後1時30分～

場所：防災会議室（本庁舎1階）

## **8 閉会あいさつ**

**副 会 長：**新しい委員の皆さんと顔合わせし、グループワークで交流することができたのでいい機会になったと思う。グループワークでは、付せんに書きながら委員の皆さん同士で話し合うことで、それぞれの思いを共有できた。皆さんが日ごろから持っておられる熱い思いを、アンケートの結果を基盤にして語り合えたと思う。日々子育ては進んでいる。必要とされている方に必要な情報が届くように、委員の皆様のそれぞれの立場や場所で、情報を共有できるように努力していきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。